

## 神奈川県公立高校即興型英語ディベート交流大会参加報告書

厚木高校では、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、個人を尊重し多様性を認める寛容性、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来国際的な舞台に積極的に挑戦し世界に飛躍できるグローバル人材の育成を図っています。そのために、国際化を進める国内外の学校・企業・国際機関等と連携を図り、グローバルな諸課題を横断的・総合的・探究的に学習を進めています。また、学習活動において、世界の人々とコミュニケーションをとり、課題研究のテーマに関する国内外のフィールドワークを実施し、高校生自身の目で見聞を広げ挑戦する姿勢を養う、体験プログラムを実施しています。



今回は、その一環として即興型英語ディベート交流大会に参加しました。この「即興型英語ディベート」は世界で活用されているディベート形式のひとつであるパラメンタリーディベート（議会討論形式）をもとに、授業での導入が可能なディベートスタイルとして作られたものです。ひとつの論題に対し、肯定と否定チームに分かれ、各々のチームが第三者を説得させる形式をとります。論題は、社会、政治、倫理、環境、国際問題など多岐にわたります。

参加高校は、小田原高校、平塚江南高校、湘南高校、柏陽高校、翠嵐高校、厚木高校の6校で各学校2チーム（計12チーム）が参加しました。また、この大会のために10月19日（月）本校で大阪府立大学の中川智皓先生による研修会を実施しました。



大会は11月8日(日)13:00～神奈川県立湘南高等学校で行われ、大会結果として、厚木高校Aチーム〔田所(2年)・日高(2年)・白井(2年)〕が見事、優勝し、厚木高校Bチーム〔荒館(1年)・松村(1年)・塚本(1年)〕が第2位に入りました。また、個人賞として“最

優秀スピーカー賞”に田所百合香(2年)、第5位に日高愛咲(2年)が選ばれました。

今大会の英語ディベートの論題、ルールは以下の通りです。

<論題>

“ we should ban a gymnastic formation on the field day. ”

“ we should abolish the zoo. ”

“ Automatic driving cars bring more benefit than harm. ”

<ルール>

ディベートをする者は、肯定か否定チームのいずれに属するかを自ら選ぶことはできず、自身の意見とは異なる観点からの主張も考えなければなりません。論題が発表されてから15~20分程度の短い準備時間の後、ディベートを開始します。ディベートの人数は、各チーム3名の計6名です。それぞれの役割名と内容は下図をご参照ください。論題が発表されてからの準備時間は、15分(または20分)です。ディベートにおけるスピーチの順番は図中の矢印の通りです。スピーチ時間は、1人3分または2分です。ただし、前後30秒は許容範囲です。スピーチとスピーチの間には、基本的に準備時間はありません。スピーチの途中で、スピーチを聞いている相手チームは質問(POI)を行うことができます。スピーチ側は質問を受けるか否かを決めることができます。ジャッジは、勝敗を決めます。個人的な考え、専門知識、偏見をできるだけ排除し、客観的に判定します。評価基準は主に「内容」と「表現」の2つの観点です

即興型英語ディベートで身に付く主要な力は、以下の5つです

英語での発信力(資料を“読む”のではなく、即興で用意した考えを“話す”)

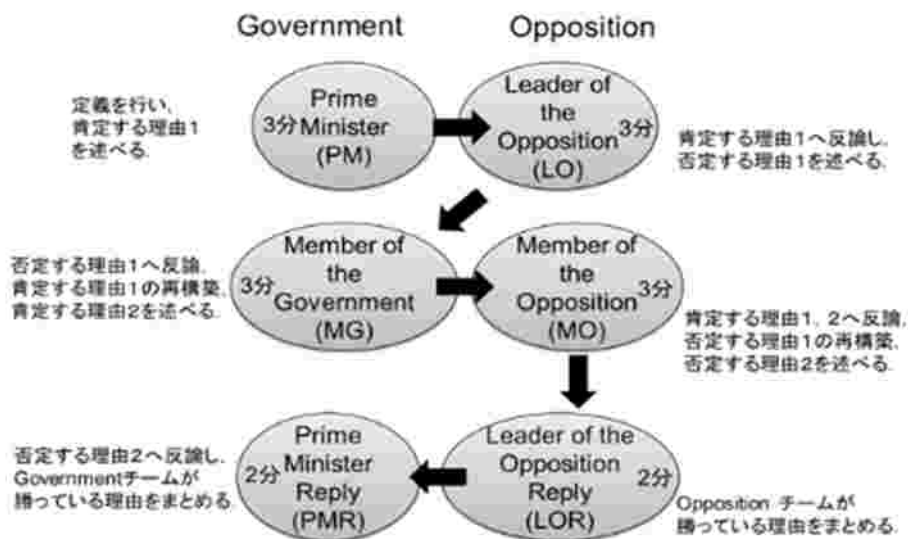
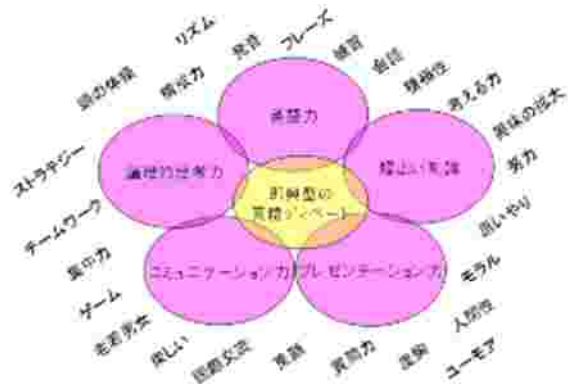
論理的思考力(説得、意見の整理、批判的思考)

幅広い知識(さまざまな論題の取り扱い)

プレゼンテーション力(聴衆を意識)

コミュニケーション力(チームでの活動)





< 11/8(日)英語ディベート交流大会参加者名簿 >

厚木高校 A	田所百合香(2年)	TADOKORO YURIKA
	日高愛咲(2年)	HIDAKA ASAKI
	白井あづみ(2年)	SHIRAI AZUMI
厚木高校 B	荒館みなみ(1年)	ARADATE MINAMI
	松村有理恵(1年)	MATSUMURA YURIE
	塚本悠太(1年)	TSUKAMOTO YUTA
厚木高校 C	松尾翔悟(1年)	MATSUO SYOUGO
	廣岡優祈(1年)	HIROOKA YUUKI
	原尻晴規(1年)	HARAJIRI HARUKI

